

校長室だより 2月号

1月18日、定時制課程2年次生のロングホームルームで生徒の皆さんに話す機会を得ました。久しぶりのことで数日前から緊張をしていましたが、いざ会場に入って皆さんの顔を見たら時間など忘れて話をしてしまいました。最初に「皆さんは開校と同時に入学した仲間であり、新しい学校を教職員と共に創っていく大切な友人である」ということ。また、学校行事の企画運営、ボランティア活動、地域との連携、部活動での活躍、資格取得等、各方面で大いに活躍したことで、地域の皆様をはじめ多くの人から認められてきたこと。これからもっともっと素晴らしい学校になり皆さんが充実した高校生活を送るためには、自分の事だけではなく後輩をはじめとする他の人への模範となる行動をお願いしたい。」ということ話をしました。

続いて本校の校訓である「発見・敬愛・自律」という言葉について話しました。

発見とは「観察的な立場にある者として初めて、その物の存在に気づき、認識を深めること。」（三省堂・新明解国語辞典より）ですが、本校では、「自分自身の中にある、まだ気づいていない自分の能力を認識する。」という意味で使っています。まず、自分の新たな能力に気づくことで、自分に自信が持て、自己の新たな能力を活かす目標を設定することができると思います。

次に敬愛とは「尊敬すると共に親しみの情を持って接すること。」（同上）ですが、自分のことだけを考えるのではなく、他の人に接する時にこの敬愛の気持ちを持っていれば、ひいては多くの素晴らしい仲間ができると考えます。

最後に自律とは「自分で決めた規則に従い、わがままを抑えること。」（同上）です。人間は自分を含めてわがまま、楽な方に流れるものです。しかし、わがままを抑え我慢することの大切さや、自分の感情をコントロールする必要性、これらの事を知って初めて大人として認められると思います。幼い子どもは、欲しい物があつたり自分の思い通りにならないと、場所や状況を考えずにひっくり返り泣き叫び自分の思いを通そうとすることがあります。しかし、このような自分の行動を他の人にどのように感じるのか、様々な経験を積むことによって人は学習し、成長していきます。

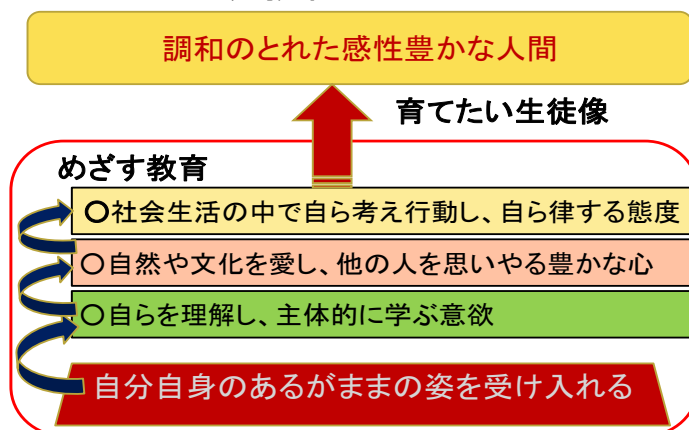
自分の新たな能力を発見し自己を高め、他の人を敬愛し多くの仲間を作り、自分で自分の生活を律することができれば初めて社会人として「自立（他に依存することなく、自分自身の判断に基づいて責任を持った行動をとること）」（同上）ができると考えます。

生徒の皆さんは、今回の私の話を顔を上げ、背筋を伸ばして、目をしっかりとこちらに向けて熱心に聞いてくれました。入学当初の態度とは大きく違い本当に感心しました。それは、本校に入学してから自分自身を見直したり、多くの人と接することで大いに成長した証として胸をはって良いと思います。本校に在籍している間に、しっかりと自立をした人間になる努力をしていきましょう。



【話しをしている様子】

めざす教育のイメージ図



○CCP講演会を開催

1月12日(木曜日)に、専門学校松江総合ビジネスカレッジ・入試センター長森山修二氏を招いてCCP講演会を実施しました。様々な出会いの体験談に基に今日から行動することの重要性を話していただきました。11月のふるさと島根定住財団の多々納雄二氏に続く有意義な講演会であったと思います。講演を聴いて皆さんがどう感じるかが重要です。講話の中には、色々なヒントがあります。ぜひ自分のものにしてください。



【公演中の森山氏】

○東日本大震災「松江市民から支援する会」に参加

1月28日(土曜日)に東北から遠く離れた松江からでもできること、今からでもできること、そして一人からでもできることを伝えることを目的として「松江市民から支援する会」が設立されました。宍道高校生徒会が中心に行った「島根から東北の皆さんへ」という寄せ書きについて、ボランティア活動で現地に入られた方々がそれを見て大変感激され、その経緯を話して欲しいとの依頼があり、生徒会副会長の古瀬君が寄せ書きの経緯や募金活動、その他のボランティア活動を紹介しました。多くの市民の皆さんに宍道高校の活動を理解していただいたことに感謝するとともに、今後もできる範囲で支援を続けていきたいと思っておりますので、協力をお願いします。



【送付した寄せ書き】



【発表した団体の代表】



【活動を発表する古瀬君】

昨年の3月11日の東日本大震災から1年が経過しようとしています。被災された人々の苦勞は、筆舌に尽くしがたいことだと思います。17年前に「阪神淡路大震災」を経験して人生観が大きく変わったと、私の親戚の中にも話しをしている者がいます。我々の使命は「次の世代に命を引き継ぐこと」また「精一杯生きて命を使い切ること」だと思います。そこで次の詩を紹介いたします。感じてみてください。

生きるのだ (坂村 真民詩集より)

いのちいっぱい生きるのだ	念じ念じて生きるのだ
一度しかない人生を	何か世のため人のため
自分にできることをして	この身を捧げ生きるのだ